

## 「箕面の森林」は発見がいっぱい!!

令和3年10月15日(金)、箕面こどもの森学園の児童に森林環境教育カリキュラムのひとつとして、エキスポ'90みのお記念の森(箕面国有林)で『森の探検隊』を開催しました。

児童22人は、学校からバスで現地に到着、何が起こるのかワクワクしながら開会式会場の芝生広場へ、説明を受けたあと4班に分れていよいよスタートです。

この『森の探検隊』は各班でリーダーの指示のもと、児童たちが、記録係、カメラ係、採集係とそれぞれの役割をこなしながら、時間内に林内に設置されている森林に関する課題に挑戦する体験型プログラムです。用意されている課題は全部で25個、そのうち事前に各班が選んだ5課題にチャレンジしてもらいます。木々を触ったり、耳をすませて鳥の声を聞いたり、普段の教室ではできないことを時間いっぱい体験してもらいました。そのあとに食べたお弁当の味はいつも以上に格別だったでしょう。

お昼からは、仲間と協力しながら周囲の自然を五感で直接感じてもらうネイチャーゲーム「宝探し」「音いくつ」に挑戦してもらいました。ここでも児童たちは、一致団結して班の仲間と協力しつつ、森林を走り回って、新しい発見を楽しんでもらいました。参加者した児童たちからは、「もっといろいろな課題にも挑戦したかった、またやってみたい。」、「いつも来ている箕面の森ですが、いろいろなものを見つけられました。」、「汗をかいたけど、森の風が気持ちよかった。」、「森にはいっぱい初めての発見があった。」などと元気な感想を聞かせてもらいました。

当センターでは、今後も森林環境教育プログラムを通して、子どもたちが自然に触れ合える機会を提供していけるように取組みます。



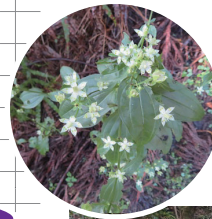
集合写真



# 近畿大学と

## 連携した取組を実施しました

令和3年10月17日(日)、秋が感じられる箕面国有林(勝尾寺園地周辺)で、近畿大学が取り組んでいる「中高大連携森林学習プロジェクト」を箕面森林ふれあい推進センター(以下「センター」という。)が共催して実施しました。風が強く肌寒い一日でしたが、森林散策、ハンモック体験、クラフト体験などに総勢11名が参加いただき、それぞれに満喫していただきました。森林散策では、学生があらかじめ調べていた樹木などをポイントごとにタブレットで花の写真(開花の時期でないためよりわかりやすくするため)も見せながら説明し、当センターから



森林散策



自然素材を使ったクラフト作り



集合写真

も所々で説明を行いました。クラフト体験では、大学キャンパス近くで昨年から集めていた様々な自然素材(ドングリ、蔓、ケンポナシの実、ツバキの実の殻)やリボンなどを使って、参加者がそれぞれ創意工夫しながら自由な作品を作って大事に持ち帰る姿を見ることができました。

令和3年11月25日(木)、センター並びに京都大阪森林管理事務所は、近畿大学との協定※に基づき箕面国有林(エキスポ'90みのお記念の森外)において、近畿大学生27名、院生1名、担当教授3名の視察を受け入れました。センターからは高山所長外2名、京都大阪所からは平井森林技術指導官外2名が対応しました。

まず始めに、令和3年度新規採用者等3名の職員から「私たちがこの職場を選んだ理由と感想」について説明を行いました。続いて、センターが取り組んでいる「オオクワガタの棲(す)める森づくり」の場所を案内しながら、ポイント毎に説明を行いました。それぞれのポイントでは、「オオクワガタの棲(す)める森づくり」、「森林環境教育プログラム『森の探検隊』の作成と実施」、「シカの被害対策」、「森林環境教育教員研修」、「森林環境教育用教材の作成」などの取組について、解りやすい内容となるように努めました。矢放係員からは、自らが創作した紙芝居「雨水のぼうけん」と「もくざいのヒミツ」について説明を行いました。



シカ被害防止対策を説明



矢放係員からの説明

今回の視察では、学生からは、「シカ柵は何のためにあるのですか。」などの質問がありました。これに対して、「植物がシカに食べつくされるのを防ぎ、大きく育つように柵を設置しています。」とセンターなどから回答しました。



約2時間の視察でしたが、大学生達は真剣な眼差しで聞き入ってくれていました。担当の松本教授からは、「今回は国有林を意識して森林を見た初めての機会になったのではないかと思います。また、森林について学ぶのと同時に、林野庁職員の皆様や卒業生の活躍を見て、この中から林野庁職員になる者が現れることを期待しています。」との感想を頂きました。当センターでは、協定に基づく取組の一環として、今後も視察案内などに積極的に取り組んでいきます。

※林野庁近畿中国森林管理局と近畿大学は、調査研究や人材育成等に関する連携協力協定を締結しています。詳しくは、近畿中国森林管理局ホームページ掲載の令和元年10月21日近畿中国森林管理局プレスリリースをご覧ください。

## 秋の紅葉の中、「森林セラピー」体験してもらいました！！



緊急事態宣言も明けた令和3年11月7日(日)に、秋晴れのもと、勝尾寺園地周辺(箕面国有林)で『みのお森のセラピー』を開催しました。このイベントは、「森林ふれあい推進事業」としてNPO法人みのお山麓協議会と箕面森林ふれあい推進センターが連携し実施している恒例のイベントで、公募によりお集まりいただいた方々に日差しあふれる箕面の森を楽しんでいただきました。参加者8名は、箕面駅からバスに揺られ紅葉真っ盛りの勝尾寺園地に到着。セラピストの岩崎さんからの歓迎の挨拶の後、早速、二チームに分かれて森林へ。ゆっくり歩道の感触を楽しみながら、木々の匂いを嗅いだり、鳥の鳴き声に耳をすませて聞き入ったり森林散策を楽しみました。呼び物のひとつである五感で森林を感じる体験では、林内にシートをひいて寝転び腹式呼吸のレクチャーを受け、身体いっぱい森林の空気を吸い込んでもらいました。途中には、ひとりずつ「ありがとう～」と林内中に響き渡る大声を出す体験をしていただきました。そして、いよいよ今回のメインイベント「ハンモック体験」です、ヒノキに囲まれた森林に準備されたハンモックにひとりずつ横になり、ゆらりゆらりと時間いっぱい、体中で森林を感じていただきました。参加者の皆さんからは、「久しぶりに大声を出せたのが良かった、森林の元気をもらいました。」、「こんな身近に自然を味わえる場所があったことを再発見できて良かった。」、「もっといろいろな企画をお願いします、必ず参加しますので。」などの感想をいただきました。当センターでは、今後も様々な機会を通じて、皆様が自然に触れ合えるような機会を提供していけるように取り組んでいきます。

# 箕面の森林にふれてもらいました ～ 葉っぱのストラップ しおりづくりを体験！ ～

令和3年11月7日(日)に、NPO法人みのお山麓保全委員会主催の「ふれあい広場 みのおの山と遊ぼう！」のイベントが箕面市のキューズモールで行われ、箕面森林ふれあい推進センターも主催者の要請に応え、体験ブースを出店しました。

家族で楽しめる工作体験などを通じて身近にある箕面の森に親んでもらうことを目的としたイベントで、当センターのブースでは、買い物に来ていたご家族など約200名の方々に、箕面国有林内で集めたイロハモミジやイチョウなどから好きな葉っぱを選んでストラップやしおりづくりを体験していただきました。

参加者の皆さんからは、「箕面の森にある葉っぱで、オリジナルのストラップをつくる事が出来て嬉しい。」「おうちに帰って、早速本に挟んでみます。」などの感想をいただきました。

併せてメインステージでは、当センターが作成した「雨水のぼうけん」の紙芝居を披露させていただきました。3回上演しましたが、どの回にも小さなお子さん連れのご家族など、たくさんの方々が足を止めて下さり、紙芝居を通して森林の大切さを学んでいただきました。

当センターでは、今後も森林との触れ合いを楽しんでいただけるような機会を提供していけるように、取り組んでまいります。

